

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098400023		
法人名	株式会社 ウエスト		
事業所名	グループホームかすりの里	ユニット名	長寿の棟
所在地	福岡県八女郡広川町大字広川1263番地3		
自己評価作成日	平成26年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

廊下から中庭の木々を眺めたり、野鳥のさえずりを楽しむことが出来る開放的な平成25年6月1日にオープンしたグループホームで、入所者様、職員共に毎日笑顔が溢れています。運営推進会議を通して地域の方との信頼関係と構築に力を注いでおり、地域の方々に信頼されるグループホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広川町の伝統工芸である「久留米餅」を由来とする事業所は、中庭を中心として2ユニットが回廊式でつながり、明るく開放的な生活空間が確保されている。開設して間もない中で、運営推進会議の議事録からは、地域の方々からの配慮や課題解決に向けた働きかけが伝わり、関係性を積み重ねていることがうかがえる。また、研修体制の確立や各種書式の整備等、職員育成やサービスの質の確保に向けた積極的な取り組みが行われており、個別ケアの充実や本人本位に基づくサービスの提供に結び付けようとしている。今後も、地域との相互の連携や情報発信を積み重ねながら、地域の福祉拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年3月12日	評価結果確定日	平成26年5月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時と全体会議にて唱和を行い、理念の意味についても職場内研修にて理解を深め共有を行っている。	開設にあたり、BS法を用いながら職員間で意見を出し合い、理念を作り上げている。日々の申し送りや全体会議にて確認する機会を持ち、共有や浸透を図っている。自ら名札に理念を携行している職員もあり、理念を意識しながら実践に結び付ける取り組みがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティア活動の人達を施設へ招き、利用者との交流を行っている。 又、今年度より地域行事の参加を積極的に行っていく。	町内会に加入している。地域行事に参加する際の駐車スペースの確保や、野菜作りや干し柿作りの際には、協力の申し入れを頂いている。今後は、近隣の小学校や保育園への働きかけも行いながら、関係性を積み重ねていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、地域の集会等へ出向き、認知症の理解や介護についてのお話を計画中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて状況報告を行い、意見、アドバイスをもらい質問相談に応じている。 取り込めるものはサービスの向上に活かす様にしている。	運営推進会議には、利用者、区長、民生委員、地域住民代表者、町役場職員の方々の出席を得て開催されている。地域の方々より協力の申し出を頂くことも多く、近隣道路の課題についても協議が行われている。玄関ホールには議事録を掲示し、情報を開示している。	開設して間もない中で、家族の参加が難しい状況にある。今後も継続して案内やスケジュール調整を行い、働きかけを行っていく予定とされている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当者が運営推進会議の委員でもあり、協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議には、町役場職員の出席を得ている。日頃から、顔の見える関係性の中で、運営や制度に関する問い合わせを行い、相談しやすい関係にある。地域包括支援センターとも、必要に応じて問い合わせや情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修等で理解認識しケアの実践に取り組んでいる。	全職員を対象とする研修機会の確保や、入居時に家族との共有認識を図る等、身体拘束をしないケアの実践に向けて、共有認識を図っている。日中は施錠されておらず、日々の業務の中で、言葉や対応による抑制についても振り返る機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を行うなどして、理解を深め虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から専門講師を招き、研修会を開催予定。制度について学び理解を深め、活用できるよう支援していく。	権利擁護に関する制度については、外部より講師を招き、全職員を対象とする研修機会を確保し、理解を深めるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を十分に行い、理解納得をもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の意見、要望については会議でスタッフ全員が周知し、運営推進会議委員へも報告している。 又、意見によっては運営に反映させていく。	家族の協力も得ながら、入居者個別の外出や食事の要望について検討を行い、反映するよう努めている。入居者の方々も準備に関わる昨年の敬老会には、殆どの家族の参加を得ており、関係性を築きながら、より良い事業運営に活かせるよう取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議にて、意見交換提案の場を設けている。個人面接も同様に意見、提案を聞いている。	今回の自己評価については、職員に振り分けながら意見を集約し作成されている。職員全員参加を基本とする毎月の全体会議は、活発な意見交換が行われ時間延長となることも多く、実際に、トイレの暖房設備等、生活環境への配慮にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回全職員に自己評価を行ってもらい、目標や成果、意見、要望等を書いてもらうことにより、職場環境の整備に取り組んでいる。 又、必要に応じ面接を実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に当たっては、性別、年齢、経験等関係なくやる気を重視している。 又、事業所で働く職員についても自由に自己実現が出来る様配慮している。	職員の採用にあたっては、人間性を重要視し、年齢や性別による排除は行わないようにしている。休憩室・時間の確保や、外部研修参加を回覧案内する等、働きやすさやスキルアップへの配慮も行われている。また、協力医療機関の研修に参加する機会もある。健康運動指導士の資格を持つ職員もおり、日常の中スキルを発揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動については、職場内研修を通じて日常のケアに浸透していく様取り組んでいる。	高齢者虐待防止やプライバシー確保、尊厳や看取りについて、内外の研修機会を確保しながら、様々な視点から、職員の資質向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部評価については、積極的に参加するようにしている。研修参加者より、全体会議において発表してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区のグループホーム部会等に参加して交流の機会を増やし、情報交換等でサービスの向上が図れる様取り組んでいく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や初回の面接にて、ご本人の不安や要望等を伺うと共に、少しでも不安を軽減できる様明るい雰囲気を作り、安心して入所していただけるよう関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の不安、要望等を受容傾聴するとともに、サービスの内容等について丁寧に説明し、信頼していただける様な関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含め適切と思われるサービスに関しての情報提供を行い、ご本人等が必要とするサービスを選択できる様支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に応じて、家事参加やレクリエーションの進行役等の役割を持っていただき、入所者様間、入所者とスタッフ間で支え合いながら、暮らしを共にする関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望や思いを受容し、ご本人の状態の変化等情報を共有し、共にご本人を支援していく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰省、外泊や友人との外出が出来る様、又、馴染みの方の面会時ゆっくり過ごせるような空間作りに努め、これまでの大切な関係を継続出来る様支援している。	これまでの暮らしについて、個別の情報収集に努めており、以前の職場の食事会参加に向けたサポートや家族との外出、日記の継続等を支援している。家族や自宅近所の方の来訪を歓迎し、ゆっくりと過ごせるよう、関係性の継続を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者間の関係を把握し、トラブルを未然に防げる様配慮し、穏やかに関わり合い、支え合う様な支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人、ご家族からの相談を受け支援に努めている。 又、介護サービス等に関する情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族より、希望や意向を伺い、可能な限り尊重するよう努めている。 困難な場合は本人本位に検討し、支援している。	日常の中で、言葉や表情、仕草等から、思いや意向の把握に努めている。担当者によるアセスメントが実施され、詳細に残されている支援経過とともに、職員全員で把握するようにしている。職員個々が個別の全体像の把握に努めていることがうかがえ、日々の実践に結びつけていくよう心掛けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に伺うと共に、入所前の担当介護支援専門員やソーシャルワーカーからの情報提供により、生活歴や生活環境等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や活気の有無、食事摂取状況等、日常生活の中で、現状や変化の把握に努めている。 又、朝夕の申送りや記録、ケアカンファレンス等で情報の共有を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を伺うと共に、定期的にモニタリングやカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	日々のケアプラン実施記録や定期的なモニタリング、カンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。日々、実践されている本人の思いを大切にした支援や、暮らしの中での役割作り、家族機能の活用等を、更に具体的に盛り込むことも期待されます。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を介護経過記録票や健康情報表等に個別に記録することで、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族の状況やニーズに対応し、希望されるサービスを受けられる様、柔軟に対応している。 入所直後生活に慣れる迄、入所前に利用していたサロンで趣味を楽しめるよう支援した。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアの方々へ支援参加を依頼している。 又、運営推進委員と情報交換を行い、入所者様に地域の行事に参加していただくと共に、老人会等のお手伝いを計画している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医2名の2週間毎の定期受診の体制を整えており、ご本人やご家族の希望を尊重し、かかりつけ医の適切な医療を受けられる様支援している。定期受診は基本的にご家族対応であるが、状況に応じて柔軟に対応している。	入居の際に、本人、家族の希望するかかりつけ医について確認し、家族との連携による受診を支援している。また、かかりつけ医による訪問診療も実施されている。複数の協力医療機関より定期的な訪問診療体制も整備され、適切な医療を受けられるよう支援している。受診状況については、電話や来訪時を通じて、家族との情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康に関する情報等記録を行うと共に、申送りノート等を活用し、介護職、看護職間の情報の共有を図り、適切な看護受診を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者様、入院時、直接病棟看護師に申送りを行う。又は、サマリーにて情報提供している。早期に退院できる様、入院直後より担当ソーシャルワーカーと情報交換や相談を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケア指針について、入所時説明を行い看取り介護についての同意をいただいている。ご本人の状態に応じて都度、意思の確認を行い、主治医と連携を図りながら支援していく方針である。	入居時に、重度化対応・終末期ケア指針をもとに説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認を行うとともに、医療関係者や家族との連携を図りながら、終末期ケアへの最大限の支援を行っていく方針である。看取りに関する外部研修に参加し、職員の意識や理解を深めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊員による「緊急時心肺蘇生法」の講習会。「事故発生等緊急時の対応」に関する職場内研修を行い、実践力を身に付けるよう努めている。又、いつでも確認できる様身近な場所にマニュアルを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入所者様と共に、避難訓練を実施し、避難方法を身に付けている。又、運営推進会議の中で地域の方々への参加を依頼している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を計画し、消防署等の協力も得ながら、水消火器を用いた消火訓練やAEDを用いた心肺蘇生法についても講習を受けている。	運営推進会議の中で、訓練の報告や協力要請が行われています。開設して間もない中で、地域より心強い協力も頂いており、今後は災害時における相互の協力体制作りにも活かしていくことが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重し、自己決定できるよう支援したり声掛けやプライバシー保護に留意することで、尊厳を支えるよう努めている。又、個人情報の保管場所を決め管理している。	尊厳やプライバシーに関する内部研修が実施されている。日常の中で、意思や感情の表出や、服装や飲み物等、選択や決定の場面を大切に捉え、職員への意識付けを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや要望を表現できるよう働きかけ、日常生活の中で洋服を選択するなど自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、その日の体調や希望に沿って生活できるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、お洒落ができるよう自尊心を傷つけない様、留意しながら支援している。 又、定期的に訪問理美容を利用できるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮剥きやもやしの根切り等の食事準備や後片付けに参加していただき、入所者様と職員が同時に楽しく会話しながら食事できるよう支援している。 又、行事を実施する日は特別メニューを提供している。	個別の嗜好の把握に努め、バランスや形状、季節感等に配慮された食事を提供している。野菜の下ごしらえや後片付け、行事の際の準備等、食のプロセスを楽しむ機会や力を発揮できる場面を確保しながら、職員とともに食事を楽しんでいる。地域の方より差し入れを頂く機会もあり、旬の食材をメニューに取り入れている。時には外出先で軽食を楽しむ等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を元に季節や嗜好に応じて変更し、状態に応じて食事形態等の工夫を行い、必要カロリーや水分量を確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の口腔内の状態や自立共に応じて、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持でき快適に過ごしていただけるよう支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の習慣や排泄リズム等に応じて自尊心を傷つけない様留意し、トイレで快適に排泄できるよう支援している。	排泄状況を把握しながら、日中はトイレでの排泄を基本として個別の支援を行っている。夜間については、個別の状況を検討しながら、必要な支援を見極めるよう努めている。さりげない声かけや対応に留意しながら、プライバシーへの配慮に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な食物繊維や水分を摂取でき、体操等で適度な運動が出来る様支援している。又、必要時には主治医の指示のもと個々に応じた下剤でコントロールを図っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は、1日置きの入浴を行っているが、ご本人の希望や皮膚の状態等に応じて柔軟に対応している。又、プライバシー保護に留意しながら入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	日曜日以外、毎日入浴準備を行い、1日おきの入浴を基本として、その日の希望や状況に柔軟に対応している。個別の疾患に応じた清潔保持にも細やかな配慮を行っている。柚子湯等、季節感を楽しむ為の工夫や、拒否される方への声かけや対応を工夫する等の支援が確認できる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、安心して快適に睡眠がとれる様、又、生活習慣や体調に応じて日中も休息出来る様支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に疾患名や薬情をファイルし、内服の目的や副作用等が理解出来る様にしている。職場内研修を行ったり、複数の職員で確認を行い確実に服薬出来る様支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やADLの状況等に応じ役割を持っていただくと共に、年間行事やレクリエーション等を行い、存在感を感じ楽しく過ごしていただける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事の参加や、天候の良い日は近隣の散歩を実施している。又、ご本人や家族の要望でドライブや買い物をご家族と楽しめるよう支援している。春には、花見やドライブを計画している。	五感の刺激や気分転換、個別の移動の手段等に配慮しながら、散歩や外気浴を支援している。梅見等の季節の花見や、軽食や喫茶を楽しむ機会も持ちながら、外出支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理や買い物は、基本的にはご家族、職員で行っているが、ご本人の要望や習慣に応じて少額の現金を所持出来る様支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族の要望により、電話を掛けたり郵便物の受け取りを行い、ご家族や親しい方々との繋がりを大切に出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に、観葉植物や花を配置しており、リビングや廊下からは、中庭の木々や野鳥を眺められ季節感や開放感を感じられる造りになっている。又、音や臭いには気を配り、快適な空間で過ごしていただける様支援している。	中庭に面して2ユニットが配置されており、明るく、開放的な生活空間は仕切りにも工夫が施されている。近隣の畦道にある梅や蜜柑の木も視界に入り、季節感が感じられる。ソファや椅子、食卓の配置にも工夫があり、その時々に応じたつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入所者様同士、会話を楽しめるような席の配置にしており、ゆっくり寛げるようソファや応接用のテーブルと椅子を設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みの物に囲まれた居心地の良い空間になるよう工夫している。	各居室には、枕元に生活に必要な品々が並んでいたり、ラジオが持ち込まれていたり、それぞれの方にとっての居室作りへの配慮がうかがえる。収納スペースも設けられ、ベッドや家具の配置等にも配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手摺りを設置、居室の入口には表札、トイレやリビング等には文字とイラストで表示を行い、安心して安全に可能な限り自立した生活が出来るよう支援している。		